



学校だより

# 教育は愛

令和7年1月31日発行  
さいたま市立本太小学校  
Tel 048-882-3007  
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>  
e-mail [motobuto-e@saitama-city.ed.jp](mailto:motobuto-e@saitama-city.ed.jp)

校長 千葉 裕(ちば ひろし)

## ◆ 変化への対応

今年の冬は、例年に経験したことのない季節感を感じています。真冬の寒さと3月の気候が入り交じり、冬なのか、春なのか、分からなくなってしまうほどです。気候が地球規模で変化しているのかも知れません。

また、学校でも4月からの学級増に備えて、多目的室とおおぞら学級の教室を改築します。児童数の増加により、年々、本校の教室事情も変化しています。

社会の変化も今までよりさらに加速していくことが予想されています。学校教育においても「変化への対応」を子どもたちの学びに積極的に取り入れていくことが求められています。

しかし、どのような変化が訪れようとも変わらないもの、それは「愛」です。

今月も「愛」を大切にして、教育活動を推進してまいります。どうぞ、変わらぬご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



## ◆ コーチング研修を受講して

昭和、平成の時代は、ティーチング全盛の時代でした。令和の時代、コーチングの重要性がクローズアップされています。

校長は、教職員へ、教職員は子どもたちへ一方的に指導するのではなく、寄り添い、物事を考えさせ、行動に移せるようにするコーチングの手法が求められているのです。

先日、校長を対象としたコーチング研修会で「保護者の我が子へのコーチングも大切！」というご指導をいただきました。

子どものミスを一方的に指導するのではなく、もう一度そのような場面になったらどうするか？ 共感と傾聴をもって接することが鍵になるそうです。ぜひ、ご家庭でもできる範囲からコーチングを実践されてみてはいかがでしょうか。

## ◆ 稚心を去る！（橋本佐内）

いたずらをしたことを指導すると「ぼくだけではありません。〇〇さんもやりました」という反応が低学年にはよく見られます。ところが、学年が進むに連れて、自分の非を真摯に受け止め、反省する態度が見られるようになります。

6年生と接していると自分の考えをしっかりと持ち、謙虚に自分を振り返る姿を見て、感心してしまうことさえあります。

すでに「稚心」から脱却しているのです。

幕末の志士、橋本佐内は15歳の時に、立派な大人になる心得として『啓発録』を書きあげました。その中の第1に挙げられているのが「稚心を去る」（子どもっぽい幼稚な心を捨て去ること）です。

私たち大人でさえ、時として「稚心」に囚われてしまうこともあります。ちなみに、橋本佐内の五訓は次のとおりです。

「稚心を去る」「気を振るう」「志を立てる」「学を勉める」「交友を択ぶ」



## ◆ 本太小地区、日本一の地域です！

ある危機事案の折に、PTA、青少年育成会へ安全配慮の協力を朝の7時前に依頼しました。すぐさま連絡を回し、子どもたちの見守りを強化してくださった姿に胸が熱くなりました。学校だけでなく、PTA、育成会の皆様と一緒に子どもたちを愛し、教育できる本太小地区！私は、日本一の素敵地域だと感謝しております。有難うございます。

◎「未来社会に向けて、シン化し続ける本太小学校！」～すべては、未来社会を生き抜く子どもたちの幸せのために～